

ものという。七部集全体に亘る注釈の最初のものである。

<引用文献>

- ・ 『コンサイス日本人名事典 / 三省堂編修所編』改訂新版 三省堂 1993 年
- ・ 『平凡社大百科事典』平凡社 1984-1991 年
- ・ 『俳諧大辞典 / 伊地知鐵男 [ほか]』明治書院 1957 年
- ・ 『近世の廻漕史料 東北編 本間新四郎家文書』雄松堂フィルム出版 1988 年

<展示資料2> 手に取ってご覧ください。

- 『芭蕉七部集』 松尾芭蕉 [著]; 幸田露伴 [評釈]
中央公論社、1956 年 1 月発行
- 『芭蕉事典』 松尾靖秋 [ほか] 編
春秋社、1978 年 6 月発行
- 『俳家奇人談・続俳家奇人談』 竹内玄玄一 著; 雲英末雄 校注
岩波書店、1987 年 1 月発行
- 『新編芭蕉大成』 [松尾芭蕉著]; 尾形侑編者代表
三省堂、1999 年 2 月発行
- 『芭蕉全図譜』 [松尾芭蕉著]; 芭蕉全図譜刊行会編集
岩波書店、1993 年 11 月発行
- 『俳諧大辞典』 伊地知鐵男 [ほか] 編
明治書院、1957 年 7 月発行
- 『芭蕉文集』 松尾芭蕉著; 富山奏校注
新潮社、1978 年 3 月発行
- 『松尾芭蕉』 雲英末雄 [編集・執筆]; 高橋治 [エッセイ]
新潮社、1990 年 11 月発行
- 『生涯と門弟/芭蕉講座編集部編』
有精堂出版、1982 年 9 月発行

- ◆城西大学水田記念図書館は、一般のみなさまに図書館を開放しています。
資料の貸出サービスがご利用いただける、ライブラリーカード会員制度
もごさいます。ぜひ、ご利用ください。

城西大学水田記念図書館 <http://libopac.josai.ac.jp>
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL 049-271-7736 FAX 049-286-8126



城西大学水田記念図書館
Josai University Mizuta Memorial Library

芭蕉と江戸俳諧の世界



図書館と県民のつどい埼玉 2017
2017 年 12 月 17 日(日)
会場 桶川市民ホール・さいたま文学館

城西大学は、創立者・初代理事長水田三喜男先生が提唱した「学問による人間形成」を建学の精神として、昭和40年に創設されました。経済学部、理学部の2学部構成で開学し、現在は加えて、現代政策学部、経営学部、薬学部、大学院(経済学研究科、経営学研究科、理学研究科、薬学研究科)、別科、および城西短期大学を擁する総合大学です。

城西大学水田記念図書館では、電子ブック・電子ジャーナルといった最新の学術情報を提供するとともに、建学の精神に基づく「学士力・人間力の涵養」を目的に叢智を学ぶため貴重古書も蒐集・保存しています。今回はこの中から「芭蕉と江戸俳諧の世界」と題して、俳句にまつわる江戸時代の板本・写本を中心に展示いたします。

芭蕉(ばしょう)[1644—1694]正保1-元禄7

江戸前・中期の俳人。松尾与左衛門の次男として、伊賀国上野(現、三重県伊賀市)赤坂町の農人町に生まれた。姓名は松尾宗房(むねふさ)、俳号ははじめ宗房(そうぼう)を用い、江戸に下って桃青(とうせい)と号した。別号も多いが、好んではせを、芭蕉とも署名した。伊賀服部郷松尾の土豪を祖とする武士の家に生まれ、新藤新七郎良忠に出仕。北村季吟(きぎん)について貞門の俳諧を学んだのち俳諧師として独立した。1689(元禄2)年に弟子の河合曾良(そら)を伴って江戸をたち、東北・北陸から大垣にいたる5か月の「おくのほそ道」の旅をした。1694(元禄7)年10月12日に大坂で病み、病中吟く旅に病んで夢は枯野をかけ廻るを最後に門人に看取られながら世を去った。遺言によって近江の粟津義仲寺(あわづ ぎちゅうじ)に葬られた。俳諧史上最大の人物で、前代の貞門・談林の句風を止揚し、中世的な美意識であるくさびを俳諧の軽みのなかに完成させた。

<展示資料1>

1. 『奥の細道(おくのほそみち)／松尾芭蕉 著』

松尾芭蕉著。書写者不詳の写本。巻末に「芳風」の号があるが墨塗りされている。

2. 『俳家奇人談(はいか きじんだん) 三巻／竹窓玄玄一 著』

竹窓玄玄一(ちくそうげんげんいち)著。文化十三年(1816)刊。江戸鶴屋ら板。飯尾宗祇(いとおそうぎ)から建部涼袋(たけべりょうたい)及び遊女俳人に至る安永以降の八十余家の小伝である。引用句は『俳諧古選』(はいかいこせん)/三宅嘯山(みやけしょうざん)編に拠るものが多い。

3-1. 『本朝文鑑(ほんちょう ぶんかん) 九巻／各務支考 編』

俳文集。支考編。享保二年(1717)成、同三年刊。野田治兵衛(のだじへい)ら板。本書は支考が範とすべき文章の格式を立て、それに適った古今の歌文を広く集めたもので、その広範な文章感から採択された作品は多種多様で、芭蕉の立てた俳文の格とは異なった性格のものが多数混入している。本書は門人蓮二房(れんじぼう)と渡部狂(わたなべのくるう)が、支考の遺命を受けて編集したことになっているが、これらはいずれも仮設の人物で、支考本人は生存し、変名で自在に活躍したのである。展示資料は全九巻が上巻(一卷～三巻)と下巻(四巻～九巻)の合本に再編されており、見返しに「文政八年」(1825)の文字がある。

3-2. 『俳諧文集 巖谷小波(いわやさざなみ)校訂』

博文館、1900年6月発行。明治期の巖谷小波が校訂した「俳諧文集」にも『本朝文鑑』の「序」が収録されている。

4-1. 『風俗文選(ふうぞく もんぜん) 十巻／森川許六 選』

俳文集。許六(きょく)選。宝永二年(1705)成、同三年刊。井筒屋庄兵衛(いづつやしょうべえ)板。本書は「本朝文選」(ほんちょうもんぜん)として刊行の後、支考の勸告と八十村路通(やそむらろつう)の抗議とによって、「風俗文選」と改題され、序文や目錄等すべて「本朝」の文字を「風俗」に改めて再販した。本書は蕉風俳人の文章を編集したもので、多数の作者の俳文を集めた書としては最初のものである。芭蕉はその生存中に俳諧文章をあつめて一集を編むことを思い立っていたが、心にかなうものがなかったので、ついに果たすことができなかった。その後十五年を経過して、許六が師の意思をついで、当時の作家の俳文を修正してその事を果たしたのである。展示資料は野田弥兵衛尉(のだやひょうえのじょう)板の九冊本(七、八巻合本)。一卷の扉に「本朝文選」の旧題が残る。

4-2. 『風俗文選.全ほか／森川許六{編};藤井紫影、武笠三諸 校訂』

有朋堂書店、1930年2月発行。7の「南都賦」部分を活字で収録。

5. 『芭蕉翁句解参考(ばしょうおう くかい さんこう) 四巻／何丸 著』

俳諧注釈書。何丸著。文政十年(1827)刊記。京都、浦井徳右衛門他二都(江戸・京都)六軒の合板で刷られている。芭蕉の発句を類題別に掲げ、各句に注釈を施した。百七十余点に及ぶ俳書を引用して、発句千二百四十余句を挙げている。

6. 『七部集大鑑(しちぶしゅう おおかがみ) 八巻／何丸 著』

俳諧注釈書。月院社何丸(なにまる)著。文政六年(1823)板行(はんこう)。書林、京都浦井徳右衛門他四軒。芭蕉七部集から発句・連句・序跋(じよばつ)などの難解なものを抜抄し詳解をほどこしたもので、引用書目五百余、十九年の春秋を経て成った